

清水高原(きよみずこうげん)歳時記(長野県道完走編)

≪長野県山形村≫(やまがたむら)

第6集

(長野県道 1 号線~508 号線)

NO.36 うなぎの岡谷・辰野(県道 14 号/下諏訪辰野線)

(長野県道 14 号走破)(長野県道 13 号走破)(長野県道 187 号走破)

NO.37 県道 254 号(榑川岡谷線)と初期中山道

(長野県道 254 号走破)

NO.38 旧菅平有料道路(県道4号=真田東部線)と真田本城跡

(長野県道 4 号走破)(長野県道 175 号走破)(長野県道 176 号走破)

NO.39 筑北スマートインターがついに完成しました

(長野県道 303 号走破)

NO.40 山梨県道 17 号(七里ライン)/長野県道 17 号

(長野県道 17 号/山梨県道 17 号走破)

NO.41 善光寺・元善光寺に孫の合格祈願にいきました

NO.42 松本空港から自宅を眺めました

(長野県道 27 号走破)(長野県道 296 号走破)

(長野県道14号走破)(長野県道13号走破)

岡谷は「うなぎのまち」として知られているのは、古くから諏訪湖や天竜川での漁業が盛んに行われ、うなぎ料理や川魚料理が郷土食として親しまれてきた。うなぎの消費量は全国的にも高く、うなぎ料理についての先人の研究・努力と、その伝統を受け継ぐ現在のうなぎ取扱店の研鑽によって、こだわりのある岡谷独自の味と料理を作りだしたとある(岡谷市のページより)。

岡谷はよく通るところで「うなぎ店」を探していくがまだ良くわかっていない。岡谷南高校横のうなぎ水門は駐車場もあり味もいい、釜口水門近くのも行ったがかなり観光地化してよくない。本町交差点近くの御うなぎ小松屋は、テイクアウトでプレゼントされておいしかったので訪れたが、店の前まで行ったが火曜日定休日が多いのでいまだ店に入っていない。下諏訪にも足を延ばしている、人気店のうなぎ林屋・ボリューム満点のうなぎ富いずれも満足して店を出ている。

2023.12.12 岡谷インターで降りて、国道20号線から岡谷市道10号線、県道254号を通り、本町交差点まで来た。昼になにを食べるか迷っていましたが、初期中山道も気になり、観光荘(横は通ったが寄った事はなかった)にうなぎを食べに行くことにしました。県道14号の本町交差点から、川岸方面に、右手の山の小野峠(初期中山道)方面を探し見ながら、途中うなぎを食べ、ほたる童謡公園にも寄り「ほたる」で有名な場所も分かりました。県道14号の平出交差点につき、その日は高遠方面に向かいました。

2020.11.10 御うなぎ小松屋を探して、岡谷駅前のから県道13号・14号・16号にかこまれた三角エリアを、一方通行もあるので行ったり来たりして探しあてました。(県道13号・岡谷停車場線走破)

2020.8.4 県道14号の湖北トンネル南交差点(起点)から



南下し、国道 20 号線との交点の^{おさかち}長地交差点に出る。すぐそばは「ヤシカ」（1949 年～1983 年）があった場所で現在は京セラ長野岡谷工場になっている。大学 2 年（1969 年/昭和 44 年）の時、岡谷諏訪地区の工場見学ミニ旅行があった、「ヤシカ」「オリンパス光学工業諏訪工場」「三協精機製作所」「帝国ピストンリング」「諏訪精工舎」このうち何社かを訪れた記憶がある。社名も体制も現在おおきく変わったと思います。旧岡谷市役所庁舎の前を通り、本町交差点に出る。そのまま辰野に向かって進み平出交差点で県道 19 号と一緒にになる。県道 19 号は本町交差点を經由して辰野駅までいくが、県道 14 号は本町交差点を左折して宮木交差点（終点）で国道 153 号線と交わる。（県道 14 号制覇）

辰野もうなぎが有名である、かつてはうなぎ屋さんも多くあったと思われるが本町交差点から辰野駅までのメイン通りはシャッター街になっていて活気がない。うなぎ屋さんを探して、いつの日かは忘れたが、駅前から県道 187 号（伊那富辰野停車場線）を走り、飯田線の陸橋を越え、上辰野の交差点を左折すると、辰野町役場があり、その前にうなぎ屋さんを見つけました。また上辰野の交差点を直進して塩尻に



向かう線路に沿っていくと、宮所交差点（県道 187 号終点）で国道 153 号線と交りました。（県道 187 号走破）

辰野のうなぎのつづき、天竜川沿いにある小坂鯉店天竜湖畔のメニューをネットで見るとうなぎの他、店名の鯉料理・虹鱒料理があったので次回行った時は立ち寄って見たいと思いました。

辰野に活気が出る時がある、それは蛍祭りの時のようだ。一度は行こうと思っていますが、その混雑が半端ではないようなので未だに行った事がない。辰野町を代表する蛍の観賞スポットは、祭りの会場（辰野駅周辺）から 1 km ほど離れた「松尾峡」。ゲンジボタルが生息しやすいように水路を張り巡らせた「ほたる童謡公園」があり、夏の夜には無数のホタルが乱舞する幻想的な光景が楽しめます。

昭和時代には、松本でも用水路などに乱舞する光景が見られたが、近年極端に減っている。蛍の種類は 10 種類くらいある、中でも代表的な 3 種類として、大型で繊細な「源氏蛍」・小型で生命力が強い「平家蛍」・小さな森の妖精「姫蛍」があり、長野県の高原には至るところに「姫蛍」が生息している。源氏蛍が日本固有の種で光は淡い黄緑色で（強い光）に対して、姫蛍も日本固有種で光は金色でフラッシュのような短い光を放つ。私の住む清水高原にも多く生息している（年によって光る数が違う気がする）。



歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvn.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

《長野県山形村》(やまがたむら) 2023.12.12

県道254号(楡川岡谷線)と初期中山道

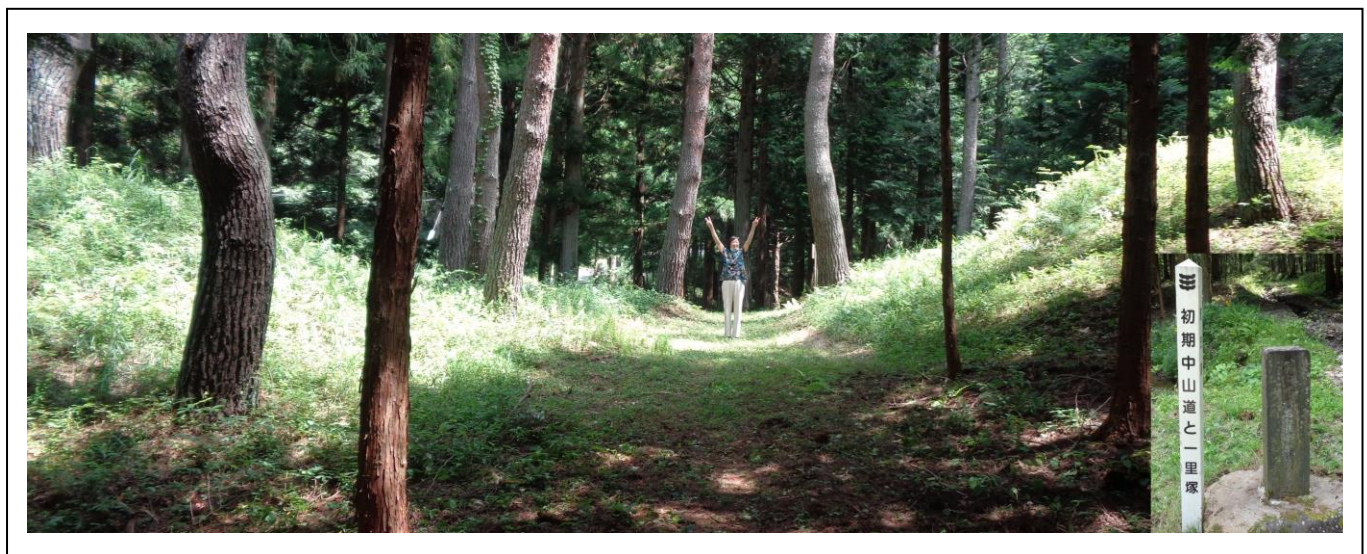
澤田 繁 著

(長野県道254号走破)

2020.8.4自宅から洗馬を通り、国道19号線の牧野交差点(塩尻市・本山宿北)に入る。19号線を南下し、これより木曾路(桜沢トンネル)の手前に非常にわかりづらいが県道254号線(初期中山道)の入口がある。県道254号線に入るといきなり1車線の山道になる。沢に沿っていくと二つの沢が一緒になる箇所(馬頭



観音跡/標高920m)に出ました、左の沢方面が県道254号線なので左に行く、さらに登ると牛首峠(1064m)に到着、牛首峠のいわれが書いた看板があった(長者平のお玉様と金龍院の坊様の悲しい物語がいわれ)。400mくらい下ると、前沢の一里塚碑がある、さらに一里下ると飯沼塚原の一里塚跡(江戸から59里)がある。小野下町の交差点で国道153号と交わり、左折すると小野宿がはじまる、小野宿は古くから交通の要衝でもあり、江戸時代の三州街道(三河から塩尻)の宿場町で、通りの風景もその趣が残っている。国道153号のしだれ栗入口の交差点を右折すると初期中山道に入り、ちょっと進むと踏切があり道なりに山際まで進



み、右折すると塩嶺王城パークラインに出る。パークラインを200m程行くと左側に初期中山道(約1kmくらいの長さ)に入る看板がある。さらに行くと、道から少し入ったところに、^{しだれ}楡沢一里塚(江戸より58里)がある。写真にあるように道の両側に現存する塚がある。これから小野峠に向かう、途中「しだれ栗の自生地」を中心に公園が出来ており、キャンプ・バーベキュー・パターゴルフ・マレットゴルフなどが出来る場

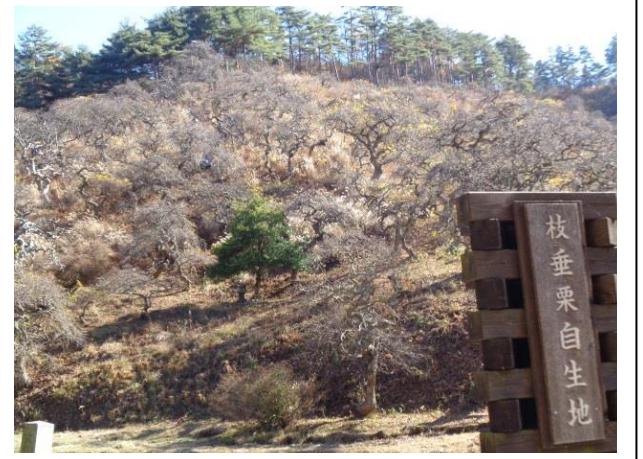


所となっている。800本以上のしだれ栗が自生しており、大正9年に国天然記念物に指定されている。しだれ栗の自生地から1kmほど登ったところに、初期中山道案内看板と小野峠碑がある。80m先が小野峠と書いてあったので峠まで車で行って帰って来ました。

塩嶺王城パークラインをそのまま進み、かつる峠で県道254号線に出て、国道20号線バイパス（湖北トンネル南交差点）から県道14号線（恐らく初期中山道の岡谷から下諏訪までの道と思われる）に入り岡谷駅方面に進み、高速の岡谷高架橋の下まで移動してきました。

岡谷高架橋の少し手前を右に入ると、初期中山道の1車線道路になっている。しばらく走ると三沢一里塚の道標がある。ここから峠に向かって登っていく、鶴峯公園の上側を通り、横に上にといった感じで宿返し

(写真撮影日・2023.11.21)



の石（標高900m）のところまで進み、この先は山道になっていて車で行くのは断念して県道14号に戻りました（小野峠は標高1075m）。

県道254号線に戻ると、国道153号線の塩尻宿の南、金井交差点から600m行ったところの三差路を左に

入ると、塩尻市道塩尻勝弦線に、峠を一つ越えると北小野地区勝弦集落に出るここで 254 号線と三差路（ここからチロルの森まで数分）で交わる。ここまでは「チロルの森」が 2020 年 11 月閉園となるまで孫たちとよくいった道順です。

2020. 5. 19 三差路を右に行く、勝弦集落を過ぎると谷に沿って下っていくと、狭い耕作地と道がつづき北小野上田地区の集落に出る。バイパスも出来ている。小野神社の門が見えてきてその前で国道 153 号線と三差路で交わった（まるで車でお参りに来た感覚）。ここから国道 153 号と小野下町交差点まで重複している。



2023. 11. 21 勝弦集落の三差路を左に曲がると、再び峠道に入る。勝弦峠に到達、塩嶺王城パークロードとも交わる。2020. 8. 4 峠を岡谷方面に下ると途中「やまびこの森アイスアリーナ」「鳥居平やまびこ公園」があり、さらに下ると、やまびこ公園入口交差点で国道 20 号線と交わる。2020. 9. 19 県道 254 号線は岡谷インター西交差点で国道 20 号と分岐し急坂を下る、岡谷市営岡谷球場横を通り、坂を下りきり、山下町 2 丁目交差点を右折し、終点の本町交差点にでる。（県道 254 号制覇）

付録<チロルの森>2020. 10. 25 撮影



2020.10.20 県道4号線(真田東部線)をと、三才山トンネルから丸子に行き、県道81号線でしなの鉄道駅の田中駅近くに、県道165号に乗り換え途中から国道18号線の牧家西交差点にと、国道を小諸方面に向かうとすぐに菅平入口交差点(県道4号終点)に入りました。

昭和45年(1970年)に、長野県企業局によって、国道18号の東京方面から菅平高原方面へのアクセス向上を目的に建設され開通した。開通当時はスキーもリフトに行列する時代で利用価値もあった。有料時代に走った事があったが、農道が所々に交差していて自動車専用道路の感じがしなかった記憶がある。どうも1989年に無料化した理由もその辺にあったみたい。

県道79号線と交差するまでは緩やかな登りの道、79号線にある「道の駅雷電」に寄って休憩。戻って再び4号線を走る。しばらく高速道路と並走、高速を離れると山の側面を走る感じに国道と交差するまで続く。和地区はぶどう栽培が盛んに行われていてワインぶどうも品質が良いところ、殿城地区には棚田が多く「稲倉の棚田」は4号線上にある。真田一族発祥の地である真田町、今回は4号線から少し入ったところに車を止め「真田氏本城跡」に見学に行った(だいぶ歩いた)。戻って、国道144号線との交点、横沢交差点(起点)まで走る。(県道4号制覇)

この日は、国道144号から国道406号に入り菅平に行き、須坂に降りて須坂長野東インターに乗りました。

2021.9.28 須坂から菅平で食事をして上田方面に降り、国道144号に入りました。「ゆきむら夢工房」で休憩し、少し戻って右折して県道175号(真田町長・終点=矢沢真田線)に入りました。すぐに山を越えると真田町本原地区に出ました。県道35号線を



またぎ南下していきます。集落の中を抜けていく、田んぼの多い殿城地区を通り、殿城字矢沢（起点）の県道 176 号との交点の三差路に出ました。（県道 175 号走破）

この日は、右折して国道 144 号に戻り、上田塩田方面にいき、若林醸造<月吉野>を買い、青木村・修那羅峠を越え、麻績インターから帰宅しました。

2022. 2. 1 三才山トンネルを抜け、平井寺トンネル（県道 65 号）を抜け赤坂交差点まで北進し右折（県道 77 号）し上田駅前まで到達しました。上田駅から大屋駅まで国道 141 号と国道 18 号で移動し

ました。県道 176 号線（下原大屋停車場線）の終点大屋駅よりスタート、国道 18 号線の大屋交差点を過ぎる、ここからは集落と田んぼが交互に来るところで、ゆるやかな登りでもある、400m 西には神川が流れており右岸（西側）は丘陵になっている。大屋地区から芳田地区に入り、浅間サンラインを越え 1km 程行くと殿城地区に入る、殿城地区を 1.8km 走ると、県道 175 号（起点）と交わる。この途中上信越道の「ローマン橋」を

くぐり抜けるが下からは迫力があつた。176 号線は残り 1km くらいで、殿城地区から真田町本原地区の下原交差点（起点）で国道 144 号と交わる（県道 176 号走破）。

この日は、国道 144 号を南下し国道 18 号バイパスを通り、18 号線を千曲市の孫の家に寄って帰宅した。



歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

《長野県山形村》(やまがたむら) 2023.12.19

筑北スマートインターがついに完成しました

澤田 繁 著

(長野県道 303 号走破)

2023.12.19 妻が信大病院で定期健診を終えるのを待って、これから筑北スマートインターに向かう、国道 143 号を北上し、刈谷原トンネルを抜け旧四賀村に入り、刈谷原町矢室の県道 302 号(起点)に入り、善光寺街道を探しながら、会田宿に到着した、なにかわくわくする。

12月17日に開始されたばかりのインターは、今年4月の予定で工事を進めていたもので、ようやく完成に至った。

2021.11.27 西条駅をスタートし、国道 403 号と県道 303 号線の重複区間を走り、筑北インターの工事区間の横を通り、国道 403 号と分岐し会田方面に向かった。県道 303 号(会田西条停車場線)は、善光寺街道とクロスし(乱橋宿/標高720m)山道に向かう、風越峠(960m)を越えると旧四賀村中川に入る、会田川(720m)まで一気に下り交差点を右折し、川沿いを会田宿まで行く。山を下る途中に「クラインガルデン」に興味があり、立ち寄って見ました。最近、クラインガルデンはあちこちに見られる、滞在型市民農園と言われ、「緑ヶ丘クラインガーデン」は比較的暖傾斜を切り開かれたところに78区画(利用期間=1年)があり、畑の関係で全体に平らな眺望も良い場所だった。会田宿を通り過ぎると、県道 302 号線(矢室明科



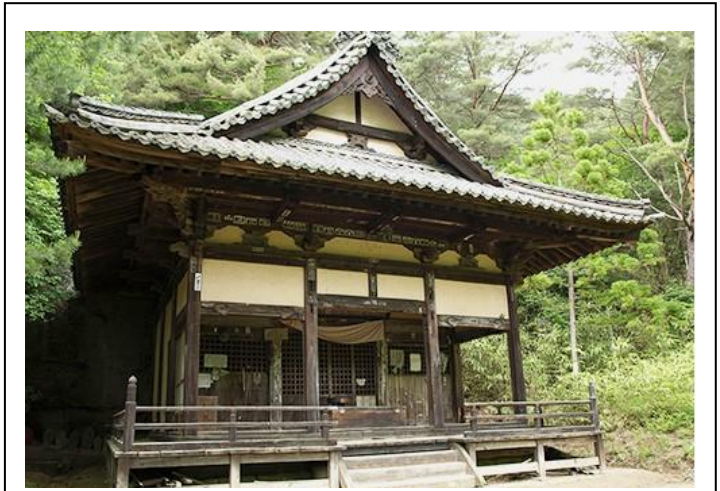
会田宿を通り過ぎると、県道 302 号線(矢室明科

線)との交点まで行き県道 303 号を完走した。

2023. 12. 19 会田宿まで到達したが、県道 303 号線で筑北スマートインターに行くか、昔行った事がある善光寺街道を通っていくか迷いましたが後者を選びました。会田宿の中心を西(善光寺街道)にいくと、県道 302 号との交点の手前で、街道は右折し北に向かう、右折した後は立峠に向かう登りになる。岩井観音堂は道からすぐ上にある、「信濃三十三観音霊場」の二十番札所になっていて、数年前に訪れた所です。信濃三十三札所巡りは、小川村の高山寺に行った時に、前から少し興味があったので、信濃三十三札所巡りの御朱印帳とガイドブックを買って始めました。2020 年から長野県道制覇のため、休止していますがそろそろ再開するつもりです。

お堂を過ぎて、しばらく行くと、立峠に行く道と林道が分かれている(立峠に行く分岐場所はわからなかった)、林道は思ったより荒れていなく花川原峠を越え下り始めました。立峠から降りてきた道と一緒になるところに案内板がありました。立峠の石畳みのことが書いてあったと思う、ここで写真を撮りました。ここから善光寺街道となり、乱橋宿を通り県道 303 号と交わり、ここで 303 号線に乗り換えインターに向かいました。

303 号線と国道 403 号線が交わり、右に行けば松本方面への入口(長野方面からの出口でもある)があり、左に行くと 100m 程で右に入る道(小仁熊ダム方面に行く道)を入れて 100m 程で左側に長野方面への入口があった(松本方面の出口でもある)。初めて筑北スマートインターの長野方面入口を利用しました。満足!



《長野県山形村》(やまがたむら) 2023.12.26

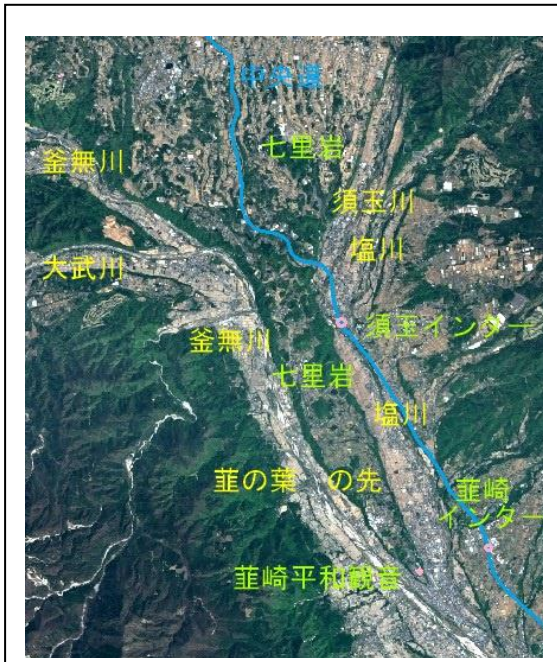
山梨県道 17 号 (七里岩ライン) / 長野県道 17 号

澤田 繁 著

(長野県道 17 号/山梨県道 17 号走破)

2023.12.26 塩尻北インターから山梨方面に向かう、長坂インターを過ぎ下りが徐々に急になっていく、須玉^{すたま}インター手前は 2km で 100m 高低差を下る箇所があり、前にバスがカーブを回り切れず飛び出した事故があったところです。この日は、天気が良く富士山を見ながら焼津港まで足を延ばして帰りました。

2020.11.10 昇仙峡にいき、ロープウェイに乗り降りた所付近を散策し、山梨県道 27 号線 (昇仙峡グリーンライン) から韮崎に、韮崎駅横を通り、本町交差点に到達しました。本町交差点は、県道 17 号線の終点となっている、ここから北に 100m のところに韮崎平和観音が立っている。17 号線を 1.4 km 行くと、七里岩^{しちりいわ}と言われている台地に登る。七里岩はここから七里 (約 30km) に渡っての台地のことで、20 万年前に発生した八ヶ岳の山体崩落による韮崎岩屑流れと呼ばれる岩屑なだれが形成した平坦地を、釜無川と塩川によって浸食崖を形成したもの。また韮崎の地名の由来は長く伸びる七里岩が「ニラ (韮)」の葉のように見え、その先端 (崎) に宿場町が位置していることからの説がある。



県道 17 号 (茅野北杜韮崎線) と J R 線の中央本線はと

ともに、韮の葉の先から七里岩の台地に登る。中央本線に沿って山梨県道/長野県道 17 号線の路線があり、新府駅~穴山駅~日野春駅~長坂駅~小淵沢駅まで進む、地図を見ると韮崎から茅野まで、中央高速・J R 中央本線・県道 17 号・国道 20 号線がほぼ平行して走っている区間だ。山梨県と長野県の境付近の県道 17 号線はちょっとわかりづらい、多分前は小淵沢駅前を通過していたのが南にバイパスが出来きたと思われる、韮崎から小淵沢までの山梨県道 17 号線が七里岩ラインと言われている。

長野県富士見町に入り、信濃境駅に立ち寄り、戻って再び 17 号線に、中央高速をくぐると、JR 中央本線と中央高速とは徐々に離れていく。富士見町は富士山が見えるところということでの町名だが、今回の走行は富士山に背を向けての走行なので、見えないのは仕方なかった。よくこの原村・富士見町は訪れるが、県道



17 号線よりかは「八ヶ岳エコーライン」を走ってしまう。「八ヶ岳エコーライン」に行くには、右側に地蔵寺跡の案内があり、そのあとわかりやすい道路案内が出ているので、走るには「八ヶ岳エコーライン」がお勧めです。

エコーラインにはいかずに直進して、しばらく行くと「八ヶ岳エコーライン」の立沢大橋の下をくぐる。17 号線は立沢地区に入り沢を渡り台地を登る。

原村に入り、原村役場やなんか寄った A コープ原村店がある地域まで進んで来た。茅野市との境は御柱道で、県道 17 号とはクロスする。右から左に曳航され、宮川の木落坂・川渡・上社たて御柱と御柱年は行われる。

茅野市に入り、起点である国道 152/299 号線との交点の山寺上交差点に到着（県道 17 号制覇）。その日は国道 152/299 号線から茅野市街に向かい県道 16 号線（諏訪湖の南）を通り岡谷インターから帰宅した。

立沢大橋（中間にベンチ）



《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.1.9

善光寺・元善光寺に孫の合格祈願をしに行きました

澤田 繁 著

2024.1.9 飯田インターで降り、飯田駅により、国道 256 号から国道 153 号線に入り北上して、座光寺共和交差点を左折し元善光寺に向かいました。先月に長野の善光寺に行ってお参りしてきましたので、片詣りにならないように、元善光寺にお参りに来ました。

昨年の 11 月には、甲斐善光寺にもいきましたので孫の大学合格祈願は「ばっちり」と思います。善光寺で気になっていることは、子供の頃から「善光寺の秘仏」の事で、非公開なだけに謎を呼んでいる。

善光寺のネットページによると、<『善光寺縁起』によれば、御本尊の一光三尊阿弥陀如来は、インドから朝鮮半島百濟国へとお渡りになり、欽明天皇十三年(552)、仏教伝来の折りに百濟から日本へ伝えられた日本最古の仏像といわれております。この仏像は、仏教という新しい宗教を受け入れるか否かを巡る崇仏・廃仏

論争の最中、廃仏派の物部氏によって難波の堀江へと打ち捨てられました。その後、信濃国国司の従者として都に上った本田(多)善光【ほんだよしみつ】が信濃の国へとお連れし、はじめは今の長野県飯田市でお祀りされ、後に皇極天皇元年(642)現在の地に遷座されました。皇極天皇三年(644)には勅願により伽藍が造営され、本田善光の名を取って「善光寺」と名付けられました。

>・・・時代は進み戦国時代となり、<戦国時代は本尊流転の時代と言われます。この時代では、時の権力者らによって本尊像は翻弄されることとなりました。善光寺平【ぜんこうじだいら】(現在の長野市がある平野部)では武田信玄と上杉謙信が信濃の覇権を巡り、川中島の合戦を繰り広げました。弘治元年(1555)、武田信玄は御本尊である一光三尊阿弥陀如来像や多くの什宝【じゅうほう】、寺僧に至るまで、善光寺を組織ごと甲府に移しました。その武田家が織田・徳川連合軍に敗れると、御本尊は織田家、徳川家の祀るところとなり、最後は豊臣秀吉が京都・方広寺の御本尊としてお祀りしました。そして、秀吉の死の直前、善光寺如来様がその枕元に立たれ、信濃の地に戻りたい旨をお告げになりました。それによって善光寺如来像は慶長三年(1598)、四十数年ぶりに信州善光寺にお帰りになられました。>

2024.1.9「リニア中央新幹線」の工事が国道 153 号線周辺でも行われていて、座光寺共和の交差点より南に 300m の国道 153 号の西側が駅になる。元善光寺の前の駐車場に車を止め、甘いものでもと、いつもこの辺に来た時は買って食べている「座光寺まんじゅう」の吉丸屋さんに行ったが、今日は休みでした残念!。階段(多分 50 段くらい)を登らないと本堂にはいけません。ゆっくり登って山門に到着しました。



元善光寺は、推古天皇 10 年（602 年）にこの地の住人本田（多）善光が、一光三尊（善光寺如来）の本尊を見つけて持ち帰り、麻績の里（古くからのこの地の呼び名）の自宅の白の上に安置したところ、白が燦然と光を放ったことからここを「座光寺」としたとされる。その後、皇極天皇元年（642 年）、勅命により本尊は芋井の里（現在の長野県長野市）へ遷座され、この寺が善光の名をとって善光寺と名付けられたことから、座光寺は元善光寺と呼ばれるようになった。お詣りして、戒壇めぐりして、宝物殿で「座高の白」や仏様をみてきました。帰りは、坐光寺スマートインター（リニア新幹線と伊那谷や松本を結ぶ）から帰宅しました。



2023.12.9 須坂長野東インターから県道 58 号線で長野駅に、善光寺表参道（いつのまにかの名称）を通り時計周りに善光寺一周し、システムパーク東の門に車を止めて、西に行くと仁王門（現在の仁王門は長野県山形村の永田（永田一族）兵太郎をはじめとする全国の信徒により 1918 年再建された）の横に出る。今日はじっくり仁王像を見ました。又今まで背面にも像があるのに気が付かなかった、背面には三宝荒神像・三面大黒像があり、これもじっくり見ました。仲見世を通り本堂でお

詣りをしました。偶然にも「御開帳」に立ち会う事も出来ました。なぜ「御開帳」かと調べて見るとく法要の最後には御本尊様が安置されている瑠璃壇のお戸帳が御開帳します。>とあり、法要はやっていた。本堂から西側に歴代の回向柱を見て、大勧進に寄り駐車場に戻りました。

善光寺・善光寺周辺には、かなり多く訪れている。最初は小学低学年の時、近くの城山公園で開催された「万博」だった。大学受験の宿泊が仲見世通りの旅館であったり、娘の「七五三」でのお詣りであったり、娘の大学時代のアパート（吉井屋呉服店）の場所だったり、コロナ自粛の直前での義理の弟の息子の結婚式が「藤屋御本陣」であったり、まだまだいろいろあった。



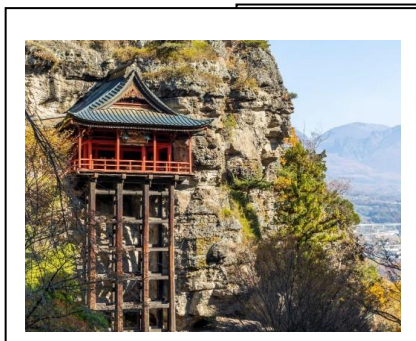
2023.11.28 甲斐善光寺に行きました。双葉スマートインターで降り、やまなみ通りを走ると、甲府駅の北口に出ました。さらに進むと坂で道が細くなりましたがそのまま進み「穂坂路」に出てそこを左折して山梨県道 6 号線に出ました、愛宕トンネルを抜け善光寺の信号を右折したらすぐに甲斐善光寺に到着しました。

甲斐善光寺は、甲斐善光寺は永禄元年（1558年）、甲斐国国主武田信玄によって山梨郡板垣郷（甲府市善光寺）に創建された。開山は信濃善光寺大本願三十七世の鏡空。



<付録>善光寺になんらか(牛)の関係している、布引観音と牛伏寺。

釈尊寺（しゃくそんじ）は、小諸市にある天台宗の寺院。山号は布引山。布引観音とも呼ばれる。信濃三十三観音霊場の第29番札所。「牛に引かれて善光寺参り」伝説発祥の地。本尊は聖観世音菩薩。



布引観音駐車場から本堂まで布引溪谷沿いのやや足場の悪い参道を15分から20分。



牛伏寺（ごぶ

くじ）、寺伝では聖徳太子が42歳の時に自ら刻んだ観音像を本尊として鉢伏山に安置したのが始まりという。寺名については、758年（天平勝宝7年）、唐からもたらされた大般若経600巻を善光寺へ奉納する途中、経典を運んでいた2頭の牛が倒れたことから「牛伏寺」の名が付いたという。なお、参道途中に建つ牛堂には2頭の牛が祀られている。以上はあくまでも伝承であって、牛伏寺創建の時期や事情については確たる史料がなく、鎌倉時代以前の沿革は定かでない。牛伏寺が位置する鉢伏山の山頂には牛伏権現と称して蔵王権現を祀っており、元来、山岳修行、修験道の山だったと思われる。寺はもとは裏山に位置し、現在地に移ったのは1534年（天文3年）である。

歳時記ホームはこちら

<http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>



《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.1.16

松本空港から自宅を眺めました

澤田 繁 著

(長野県道 27 号走破) (長野県道 296 号走破)

2024.1.16 自宅から松本空港に行きました。用事があったので寄り道をしていきましたが、自宅から山を下るに 10 分、そこから 15 分で到着します。

松本空港は、昭和 40 年(1965 年)に開港し、当時は季節便しか利用がなかったが、平成 6 年(1994 年)滑走路が延長され、ジェット機が就航出来るようになり、ターミナルも新しくなった。さらに 2020 年から、RNP=AR が設置され、GPS の精度向上もあり、悪天候でも安定した離発着が出来るようになった。



ターミナルのすぐ前に無料の駐車場が完備されているので、あまり歩かなく、すぐ乗れた記憶がある。ただ 20 数年前、北海道パックスツアーに参加した時、悪天候で飛ばず、羽田まで移動した、にがい記憶もある。いつもまじかで見るのは、滑走路が見えるテニスコートの横や、車運転中や、サッカー応援のスタジアムから離発着をであるが、今日は、ターミナル 3 階の展望台から、たまたま「カナダのプライベートジェット」の出発を見ることが出来ました。朝の番組で世界の 1% の人が利用している「プライベートジェット」の CO₂ (商用ジェットの 1/2 の量の燃料) の話を聞いたばかりなのに、ここで見れるとはなんとともはや!



自宅や自宅の近くで、松本空港を見ることが出来、木の伐採が進み空間が広がり、離発着の様子がほとんど見ることが出来るようになりました。写真のピンク○のところが自宅周辺です、白く見えるところは雪で、高い木がない部分です。ジェット機の離陸時の音が一番大きく聞こえてくるが、着陸の音は気づきにくい。最近スマホアプリで、リアルタイムで飛んでいる飛行機の位置がわかるので、着陸ショーを上から見て楽しんでます。最新の時刻表によると、FDAの5便が就航中となっていて、他空港から飛んできて、そのまま他空港に飛ぶ運航のようだ。FDAは何といっても機体の色が見もの、機体が増えるたびに、色を募集していたのが、もう16機15色になっていたとはおどろきです。(ドリームレッド・ライトブルー・ピンク・グリーン・オレンジ・パープル・イエロー・ティーグリーン・ゴールド・シルバー・ホワイト・ネイビー・ワインレッド・ローズピンク・バイオレッド)



時刻表 (2023.10.29~2024.3.30)

到着		出発	
FDA230 神戸→松本	07:45発 08:45着	FDA211 松本→新千歳	09:15発 10:50着
FDA200 福岡→松本	08:35発 10:00着	FDA233 松本→神戸	10:35発 11:40着
FDA204 福岡→松本	11:10発 12:35着	FDA205 松本→福岡	13:05発 14:55着
FDA216 新千歳→松本	15:10発 17:00着	FDA207 松本→福岡	17:30発 19:20着
FDA236 神戸→松本	16:45発 17:45着	FDA237 松本→神戸	18:15発 19:20着
FDA214 新千歳→松本	13:30発 15:20着	FDA215 松本→新千歳	15:55発 17:30着

運航日 10/29~11/30 12/23~R6.1/8 2/4~2/11 3/1~30

高速降りて空港までは県道27号線(松本空港塩尻北インター線)で約10分、松本駅からはバス路線・直通バスがあり、松本駅—鎌田

(国道19号)—高宮(県道296号=松本空港線)—二子橋—町神—空港で、所要時間30分。



1994年(私46歳)滑走路延長により、10数年通い続けた通勤路がダメージを受けた(他にも信号機の増加等)。

歳時記ホームはこちら

<http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/aijiki/saijikihome.htm>